

感染症のスペシャリスト

手強いバイキンとどう戦うか

感染症科って何？

感染症科という診療科をご存じでしょうか。かぜもインフルエンザも

ノロウイルスもみんな感染症であり、皆さんにとって感染症は身近な存在です。さらに2014年は感染症で

話題になった1年でした。代々木公園を中心に発生したデング熱、西アフリカを中心に猛威をふるうエボラ

ウイルス感染症、そして栃木県ではダニから感染する日本紅斑熱を初めて診断しました。感染症科では、細菌やウイルスなどのバイキンがヒト

への戦いを挑み、その戦いによって起きる様々な病気「感染症」を扱います。バイキンとの戦いにより、ヒトは高熱を出したり、咳を出したり、

下痢になったりします。バイキンとの戦いに敗れば、死んでしまうことすらあります。私たち感染症科医

は、バイキンの侵入を防いだり、バイキンと戦う最強・最適な武器を駆使したりして、日々バイキンに立ち

向かっています。バイキンの攻撃範囲は広く、体中どこでも起こりえます。循環器内科、消化器外科などの

臓器による診療科の区切りにとらわれず、いろんな部位の病気を相手に

します。このため、当院では多くの部門と協力しながら診療に当たっています。

正しい抗生物質と治療が患者を救う

「かぜを引いたので抗生物質を内服して良くなりました。」これは、正しい抗生物質の使い方ではありません。抗生物質は細菌にしか効きません。ウイルスが原因である風邪には全く効かないのです。逆に抗生物質が効きにくい細菌を増やし、副作用が出現するかもしれません。抗生物質は使い方次第で悪者にも、救世主にもなりうるのです。全てのバイキンに効く抗生物質は存在しません。数百種類ある抗生物質には得手不得手があり、最良の武器を選ばなくてはなりません。さらに抗生物質だけではなく、手術をしてバイキンを取り除くことも重要な治療の一つです。高度な医療を提供する当院では、重症患者が多く、私たち感染症科が診療に加わり患者さんの命を救うべく努力しています。

バイキンの侵入を防げ

バイキンが体に侵入しなければ感染症は起きません。正しく手を洗うことは予防の一つです。病院は病

気の人が集まる場所であり、バイキンに汚染されやすい環境です。アルコールで消毒したり石鹸と流水で手を洗ったりする事により、患者さんから患者さんへのバイキンの伝播を防ぐことができます。我々は病院スタッフを中心に正しい手洗いや手袋などの防護具の着用についての指導を行っています。もう一つの大切な予防はワクチンです。インフルエンザワクチンは生後半年以上の全ての人に推



手洗い用のアルコールジェルを持った感染症科チーム

自治医科大学附属病院
臨床感染症センター 感染症科

臨床助教

法月

正太郎

奨されています。65歳以上の方は肺炎球菌ワクチンが定期接種になりました。土いじりをされる方は破傷風ワクチンをぜひ接種すべきです。ワクチンで防げる病気を防ぐことは大切な予防の柱であり、当院のスタッフも行っています。

下野市、栃木県の皆さんに安全、安心のために

当院は第一種感染症指定医療機関です。行政の指示により栃木県でエボラウイルス感染症などの疑似患者さんが発生した場合には当院の感染隔離病棟に入院します。疑似患者さんは、三重の扉のある部屋の中で管理されます。隔離区域は厳重に管理されており、エボラウイルスなどの病原体が漏れ出ることはありません。当院の患者さんやスタッフには影響のない構造となっています。我々はマニュアルの見直しや訓練を行いながら、万が一の患者さんの発生に備えています。

感染症科を持つ大学病院はまだまだ少なく、全国からスタッフが当院に集まり診療を行っています。地域の皆様により良い医療を提供できるよう今後も努力いたします。